

平成 29 年 3 月  
第 4 回清水町議会定例会一般質問事項

質 議	問 席	者 氏	質 問 事 項
8		口 田 邦 男	<p><b>1 町政に対しての基本的な考えは</b></p> <p>新町長に就任以来、日が浅く、よって今回の予算も骨格予算であり、また、施策について質問しても現実味のある答弁がいただけないと思う。</p> <p>そうした中、新町長として本町のかじ取りをどのようにしていくのか、基本的な認識と意見を伺う。</p> <p>(1) 国や道などとのつながりと対応策  (2) 十勝管内他町村との関係  (3) 二分化した本町をどう見ているか。また、今後どうすれば良いのか。  (4) 議会、町民に向けて特別に訴える阿部カラーはあるのか。</p>

質 議	問 席	者 名	質 問 事 項
5	佐藤幸一	<p>1 町長の選挙公約について</p> <p>(1) 学校給食費無料化</p> <p>① 学校給食法に抵触することはないか伺う。</p> <p>② 無料化を実施した場合の財源の手当てについて伺う。</p> <p>(2) 義務教育費の保護者負担ゼロ</p> <p>① 義務教育費に対する町長の基本的な考え方を伺う。</p> <p>② 修学旅行費の公費負担に対する過去の議論をどのように捉えているか伺う。</p> <p>③ 義務教育費を全額公費負担した場合の総額と財源の手当てについて伺う。</p>	

質 議	問 席	者 氏	事 名	項
6	木村好孝	1 増加と低年齢化が進む不登校への対応について	<p>文部科学省の調査では、道内で不登校となった小中学生は2015年度に過去最多となり、このうち小学生が初めて高校生を上回るなど、低年齢化が進んでいる。</p> <p>いじめなど、子どもを追い詰める問題は絶えず、保護者らが無理に登校させない傾向も強まって不登校の増加につながっていると指摘する声もある。苦しむ子どもや保護者をどう支援するか、教育現場での模索が続いているのが現状である。不登校に関わって次の点を伺う。</p> <p>(1) 新聞報道によると、帯広市の小中学生の不登校数が2015年度ではここ数年で最も多い133人（小学生35人、中学生98人）と徐々に増加傾向にあり、2011年度からの5年間で小学生は8人、中学生は10人の増加となっている。本町における過去5年間の不登校の実態を伺う。実態があるのであれば、学校及び教育委員会の具体的な対応について伺う。</p> <p>(2) 全国の不登校児童・生徒数は2015年度で約12万6千人であり、3年連続で増加する中、国は12月7日、不登校対策や何らかの事情で義務教育を修了できなかった人が通う夜間中学の整備など、教育機会の確保等を目的とした「教育機会確保法案」を可決したが、教育委員会としてどのように受け止め、対応しようとしているのか伺う。</p> <p>(3) 文部科学省の有識者による「フリースクール等に関する検討会議」の審議経過報告にある「フリースクールと学校・教育委員会の連携」について、どのように捉えているか考えを伺う。</p>	

質 議	問 席	者 氏	事 名	項
		<p data-bbox="555 257 1410 347"><b>2 入学準備金の前倒し支給など就学援助費に関わって</b></p> <p data-bbox="555 405 1410 683">道は2月13日、北大と共同で行った子どもの貧困に関する実態調査の速報値を発表した。調査実施地域には本町も含まれており、小学2・5年生、中学2年生、高校2年生の児童生徒のいる世帯のうち、家計が「赤字」と回答した世帯が、同様の調査を行った札幌市より4.1ポイント高い23.8%となっており、地方においては都市部以上に経済的余裕のない状況が明らかとなっている。</p> <p data-bbox="555 696 1410 875">道は調査結果を詳細に分析し、本年度中にも最終報告をまとめるとしているが、「赤字」を埋める手段として「貯金の取り崩し」が14.2%、「借金」が9.5%となっており、就学援助を受けている世帯は18.9%となっている。</p> <p data-bbox="555 889 1410 1023">全道的にも子どもの貧困状況が進んでいることが速報値により明らかになっているが、入学準備金の前倒し支給など就学援助費に関わる次の点について伺う。</p> <p data-bbox="577 1081 1410 1507">(1) 入学準備金の前倒し支給は、全国的には約80市区町村で入学後から入学前の支給に変更（2月4日現在）しており、北海道では8市15町村が実施済・実施約束・実施検討（2月5日現在）と広がってきている。昨年9月定例議会の一般質問で教育長は「検討したが前年の所得を基本に判断するとなると確定申告による所得の確定が困難であり、現状の認定要件では難しいと考えている」と答弁されているが、その後の全道的な状況の中で、更なる検討がなされたのかどうかを伺う。</p> <p data-bbox="577 1520 1410 1798">(2) 2017年度予算案で生活保護世帯（要保護世帯）に対する就学援助のうち、新入学児童生徒学用品などの補助単価を国は2倍に引き上げることを決めているが、実施に伴い、準要保護世帯への補助単価引き上げを交付税に反映するよう国に求め、単価改定を準要保護世帯にも適用することについて考えを伺う。</p> <p data-bbox="577 1812 1410 1946">(3) 町長は「5つの約束と43の宣言」で、義務教育費負担ゼロのまちを目指すことを掲げているが、この就学援助の課題はまさに義務教育無償の入口であると考えるが、見解を伺う。</p>		

質 議	問 席	者 氏 名	質 問 事 項
7	原 紀 夫	<p><b>1 阿部新町政公約実現への道筋について</b></p> <p>阿部町長は2月の町長選挙において激戦を制し、就任された。高薄町政 16年の長期にわたる町政後の新たなトップリーダーとして本町のかじ取りに期待するとともに、すべての町民が阿部町長を選んで良かったと思える、活気あふれるまちづくりに、スピード感を持って取り組まれることを望む。</p> <p>新町長は「着実に前へ」をキャッチフレーズに掲げ、「5つの約束と43の宣言」を示し、過去の豊富な行政経験や民間での経験を、即戦力で実行することを訴え、多くの町民が選択したものと考えられる。</p> <p>とりわけ地方自治体の行政は、国の政治の影響が大きく、現下の国政は先の読めない状況下であり、町民を守り、地域経済を発展させるためには、未曾有の大災害を受けたまちとして国や道に町民の立場から積極的な発信をするとともに、自治体としてできる施策に可能な限り果敢に取り組んでいくことが求められていると考える。</p> <p>公約に掲げた政策に関する予算は今後、準備が整い次第、議会に提案したい旨を述べているが、5つの約束の中で示されている「町民が主役のまちづくり」について、現段階で考えている範囲で以下の項目について伺う。</p> <p>(1) 清水町まちづくり計画は基本構想、基本計画ともに10か年の計画で、本年で7年目を迎えているが、新たなまちづくり計画策定について考え方を伺う。</p> <p>(2) 役場組織の機能強化をどのように図ろうとしているのか伺う。</p> <p>(3) 町内会組織は今後のまちづくりに欠くことが出来ないものと考えられる。高齢化が進む中で本町の現行組織について考えを伺う。</p> <p>(4) 公共施設改築計画の策定について、昨年、保育所の危険性について指摘し、危険の除去を求めていたが現状での考え方を伺う。</p> <p>(5) 人口減少、財政難の中、大災害を受け公約を前へ進めるには大変な努力が必要と考える。町内を融和に導き、過去の対立を改め一本化する努力はどうしても必要と考える。</p>	

質	問	者
議	席	氏
		質 問 事 項
		<p>そこで提案であるが、過去の町長選挙で3名の若手候補が果敢に町長選挙に挑み、残念ながら当選には至らなかったが、いずれの候補も町をいかに盛り立て再生させるかを目標に立起したもので、それぞれの公約等は価値あるものが多いと考える。この際、新人同士が戦った選挙戦をきっかけとして、町長が主導し定期的に会合を持ち、意見交換するなどの方法で町を二分していた過去を拭い去る努力をしてほしいと考えるがいかがか。</p>

質 議 席	問 者 氏 名	質 問 事 項
3	北村光明	<p><b>1 新町長の政治姿勢と予算編成について</b></p> <p>今定例会で審議予定の平成29年度の予算案は骨格予算であり、町長が掲げたマニフェストに関する政策予算のスケジュールはどのようになるか伺う。</p> <p><b>2 議会議員の一般質問と答弁について</b></p> <p>議会における質問は議員固有の権限として与えられており、執行機関に疑問点を質し所信の表明を求める。それは住民の知る権利を保障するために行われる。定例会の一般質問と答弁に対する認識を伺う。</p> <p>(1) 一般質問通告から答弁までの過程を伺う。  (2) 町長と担当課・全体との合意形成の道筋を伺う。  (3) 答弁後に質問と答弁の検証はどう行うのか伺う。</p> <p><b>3 職員の再任用・再雇用について</b></p> <p>災害時における役場職員OBの力量及びそのボランティア活動が見直されるべきと考える。「清水町職員の再任用に関する条例」の運用の現状に関して新町長の考えを伺う。</p> <p>(1) 再任用制度の現状について、自治体の長としての認識を伺う。  (2) 再任用者の業務のあり方や役割に期待するものはあるか。  (3) 再任用等を希望する者の手続きはどうあるべきか。</p> <p><b>4 人事制度について</b></p> <p>新町長に期待することのひとつに役場職員の意識変革を含めた「役場変革」がある。自治体職員としての意欲を高めるための人事のあり方等の認識を伺う。</p>

質 問 者	議 席 氏 名	質 問 事 項
		<p><b>5 地域防災計画と地域の自主防災体制について</b></p> <p>台風 10 号の災害を経験した本町における防災計画と町内会等の自主防災体制について伺う。</p> <p>(1) 災害の復旧復興に全力をそそぐと同時に防災計画の見直しを並行して行われる必要があると考えるがどうか。</p> <p>(2) 現在の地域防災計画の再構築をするにあたって、昨年の災害時の検証が必要であり、町民を交えた検証の場が必要だと思えるがどうか。</p> <p>(3) 町内会等における自主防災体制の構築が急務と考えるがどうか。</p> <p>(4) 町内での防災訓練は町民避難も含めるべきと考えるがどうか。</p>



質 議	問 席	者 名	質 問 事 項
11	安田	薫	<p><b>1 農業政策について</b></p> <p>(1) 中堅規模農家の離農の理由と対応策について伺う。</p> <p>(2) 若者の就農・定住事業で地域の活性化を図ってはいかがいか。</p> <p>(3) 災害後の町営牧場の草地再生と更新の計画について伺う。</p> <p>(4) いまだに良質な地下水を飲料水として確保できない農村地域の実態と今後の対応策について伺う。</p>